

知事記者会見の概要

日 時：令和8年5月13日(水) 10:01～10:47

場 所：502会議室

出席記者：15名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。
その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) クマの目撃情報とクマによる人身被害の状況について

代表質問

- (1) クマによる人身被害について

フリー質問

- (1) 発表事項・代表質問に関連して
- (2) 部活動の遠征における引率業務の安全管理について
- (3) さくらんぼシーズンに向けた観光誘客の考えについて
- (4) 楽天2軍本拠地の誘致について
- (5) 最上義光を主人公とした大河ドラマ制作に係る要望について

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

5月は「消費者月間」となっています。今年度は、「見える情報、見えない仕組み～AI時代の消費者力を高めるために～」を統一テーマとし、全国で啓発・教育などの取り組みを行っています。

県では、県庁の1階にあるジョンダナホールと県立図書館で、関連の啓発を行っております。

インターネットでは様々な広告が表示されますが、これは個人の検索や閲覧の履歴などから、AIが一人ひとりの好みを分析して自動的に表示しているものであります。

県民の皆様には、この機会に、こうした見えない仕組みを理解して、本当に必要なものを自分で選ぶ消費者力を高めていただくとともに、消費生活でお困りのことが生じた場合には、一人で悩まないで、「消費者ホットライン188」、「いちほちはち・いやや」と読みます。ここまで連絡してくださいませようお願いいたします。

次に、熱中症への注意喚起について申し上げます。

県内では、週末からも暑い日が続き、来週の月曜日以降は、30℃以上の真夏日となる地点も予報されています。まだ身体が高い気温に慣れていない、そういう中で、熱中症のリスクが高まることが懸念されます。

熱中症を未然に防ぐためには、のどの渇きを感じる前からこまめに水分補給を行う、外出の際は日傘や帽子などで日射しを避けることが大切です。

また、農業や建設業など外作業では、帽子に加え、体に風を送る空調服を着用し、十分な休憩を取るとともに、複数名で行動してお互いに声かけを行っていただきたいと思っております。

学校では、個々の児童生徒の体調に十分目配りをするとともに、こまめな休憩時間の確保や、水分・塩分補給など、健康管理を徹底し、児童生徒の熱中症事故防止に万全を期していただきたいと思っております。

県民の皆様には、活動場所における気温や暑さ指数にご留意をいただき、特に子どもや高齢者の方へは、目配りをさせていただきますよう、ご注意をお願いいたします。

次に、ゴールデンウィーク期間における観光地等の入込状況について申し上げます。

4月25日から5月6日までの12日間の入込状況について、主な観光地・温泉地やイベントを対象に聞き取り調査を行いましたところ、速報値ではありますが、入込数は約89万人となり、県内外から多くの観光客で賑わいました。

特に先月1日にリニューアルオープンした鶴岡市の加茂水族館や、午年御縁年（うまどしごえんねん）に当たる羽黒山では、ゴールデンウィーク期間中の入込客数が前年の1.3倍となり、多くのお客様で賑わいました。

イベントでは、山形市中心部で開催された「スプリングフェスティバル」や新庄市の「カド焼きまつり」なども盛況だったようであります。

一方で、物価高騰やイラン情勢に伴う先行き不透明感からか、例年に比べて遠方のお客様が少なく、県内や隣県など近場の方が中心だったということであります。期間を通した入込数も、前年を下回る実績となっております。ちなみに前年は、約 94 万人ということであります。

現在、山形県では、5 月末まで「ととのうやまがた 春のとまってめぐってキャンペーン」として、やまがた紅王や県産品のプレゼント企画を実施しております。これから爽やかな風薫る初夏の季節を迎えますので、引き続き国内外の多くの皆様に足をお運びいただき、山形を満喫していただければと思っております。

次に、さくらんぼであります。

「やまがた紅王」が実を付けました。（補足：知事が「やまがた紅王」の果実の育成状況を写したフリップを提示する。）

今、このぐらい大きくなったということで、昨日の写真かな。暑い日が続いて順調に生育しております、すでに小指の先程度の大きさになっています。これは 100 円玉と比べていますね。500 円玉くらい大きくなると良いと思っております。

主力品種の「佐藤錦」につきましては、まだ結実がはっきりしていませんが、開花が早く生育の進んでいる「やまがた紅王」や「紅秀峰」の果実の肥大は、概ね良好と聞いております。

現在、園芸農業研究所では、大玉になるように摘果を実施しています。大きくておいしい「やまがた紅王」が待ち遠しいですね。

☆発表事項

次に、私から 1 点、発表がございます。

お配りしている資料のとおり、県内の今年のクマの目撃件数は現在まで 140 件であります。年間で過去最多となった昨年を上回るペースで増えており、そのうち 4 割強が庄内地域という状況であります。

また、人身被害につきましては、5 月に入り立て続けに 2 件発生しております。そして、県警で調査中ではありますが、クマに襲われたことが疑われる死亡事案も発生しています。心からお悔やみを申し上げますとともに、被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。

春の山菜採りや秋のキノコ採りで事故は毎年のように起きていますが、今年的人身被害はすべて山菜採りの最中に起きております。

山菜採りのシーズンもまだ続きますので、山に入る際には、「必ず音の出るものを携行す

ること」、「できるだけ複数人で行動すること」、「これまで目撃がなかった場所でも決して油断しないこと」など、今まで以上に嚴重な注意をお願いします。

なお、県では現在、「クマ出没警報」を発令中であります。

県民の皆様には、スマートフォンアプリ「けものおと2」で最新の情報を確認いただきながら、山に入る場合だけでなく、「クマの活動が活発になる早朝や夜間は特に注意をすること」、「農作業の際、クマの目撃情報があったところでは、音が出るものを携行すること」など、お一人お一人が、身を守る行動をとっていただきますようお願いいたします。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

幹事社の時事通信、島田です。よろしくお願ひいたします。

今の知事からの発表でもありましたクマの話について関連してお伺ひします。

今月に入り朝日町や上山市でクマによる人身被害が相次いで発生している状況について、まず、現在の出没状況をどのように受け止めているかお聞かせください。

その上で、春先におけるクマ対策について、今後の対応のあり方や見直しの必要性についてどのようにお考えかお聞かせください。お願ひいたします。

知事

この春、県内でクマによる人身被害が立て続けに発生していることについて、被害に遭われた方、並びにご家族の皆様にご心からお見舞いを申し上げます。県としましても、非常に残念なことと受け止めております。

本県では、昨年のクマの大量出没という深刻な状況を踏まえ、山形県版クマ被害対策パッケージを取りまとめ、総合的に対策を強化してまいりました。

この春の取組につきましても、具体的には、クマの目撃情報を県民の皆様にご即時に提供するための情報発信アプリの導入や、SNS・新聞広告を活用した広範な注意喚起、春季捕獲の強化など、複数の対策を講じてきたところであります。

現時点では、今年的人身被害はいずれも、クマの生息域における山菜採りの最中に発生しています。山中になりますと、加害クマを特定して捕獲するということが非常に難しいため、どうしても山に入らざるを得ない場合は、チラシに記載している対策を嚴重に講じてくださるようお願いいたします。

一方で、自然が相手の予測が難しい面もありますし、市街地での出没の増加にも警戒が必要でありますので、市町村や関係機関と連携しながら、必要に応じ対策の見直しを行うなど、適切に対応していく考えであります。

県民の皆様のご安全・安心の確保に向けて、引き続き緊張感をもって取り組んでまいりたいと考えております。

☆フリー質問

記者

テレビユー山形です。

去年、かなりクマの出没が多く、今年はさらにクマの出没のペース早いですよね。緊迫した状況となっていますが、今後、国に要望、あるいは県民に山菜採りの自粛を呼びかけるなどの予定はあるでしょうか。

知事

山菜採りの最中に、今年に入ってから人身事故起きていますので、クマの生息域である山に入っていく山菜採りをするわけですから、それが生活の楽しみ、趣味であったり、自家消費ということであれば、私としては正直に申し上げますと、できるだけ控えていただければというふうに思っています。

ただ、それが生業として山菜採りというような方もいらっしゃると思いますので、そういう場合は、先ほど申し上げたように十分な対策を講じて、細心の注意を払っていただきたいというふうに思っています。

あと、政府への要望ということでもありますけれども、現在ですね、5月12日に環境大臣の記者会見で、「クマ出没が多発していて、山菜採り中のクマによる人身被害が発生している」といったことで、クマに対する注意喚起の発言がありました。

環境省から都道府県担当部局に対して、県民への注意喚起の依頼通知がありました。これを受けて、本日中に市町村に対し、改めて注意喚起を行うというようなことになっているところでもあります。

記者

ありがとうございます。

また、今月の5日に酒田市の山で発見された遺体がクマに襲われて亡くなった可能性が高いということについてなんですが、死因はクマによるものだと確定はしたのでしょうか。

知事

私がお聞きしている段階では、今、県警で調査中ということでもあります。結論はまだお聞きをしておりますが、クマに襲われたことが疑われる死亡事案ということでもありますので、今後しっかりと注視していきたいというふうに思っています。

記者

共同通信の生田です。今のクマの質問に関連したところになるんですが、昨年からクマの出没が大幅に増加していて、例えば山あいで観光業を営まれている方ですとか、先行きを案

じていらっしゃる方、非常に多いと思います。

これから出没が増えてくると、例年よりも観光客が減ったりですとか、そういうことが出てくる可能性、大いにあると思うんですけども、そういった場合、県としてどういう支援だったり対応するかっていうのは何か現状、考えられている部分ありますでしょうか。

知事

観光地がクマ出没の近くとか、そういうことは可能性があるかと思いますが、これまでのところ市街地でも目撃情報はありますし、県内全域といってもおかしくないのかなと思いますので、特に観光に対して大きな影響が出ているかということについては、まだよくわからないということだと思っています。ゴールデンウィークは、昨年よりは少なかったものの、多くの方がいらっしゃっているということで、昨年より少ないのは、イラン情勢の影響ということがあるのではないかという分析でありますけれども、これ以降ですね、クマの出没がさらに増えて、観光にも影響が顕著になるようであれば、やはりなんらかの支援とか、サポートを考えなければいけないというふうに思っております。しっかりと事態、状況を注視して適切に対処していきたいというふうに思っています。

記者

NHKの内藤です。よろしくお願いします。

福島県の磐越自動車道で高校生21人が死傷したマイクロバスの事故がありました。県は、それを受けて、県内の私立高校を対象に部活動の遠征における生徒の移動方法に関して緊急の調査を11日から行っているかと思っておりますけれども、現時点で、どういった調査結果になっているのかということと、今回の事故を受けてですね、部活の遠征における生徒の安全を確保するために、どういった対策が県として必要だというふうに考えますでしょうか。

知事

大型連休中の6日に、福島県郡山市の磐越自動車道で、遠征中の高校生が乗るマイクロバスがガードレールに衝突し、生徒お一人が死亡する本当に痛ましい事故がありました。お亡くなりになった生徒さんのご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた生徒の皆さんの1日も早い回復をお祈りしております。

本県でも平成23年に生徒引率中の自動車事故というのが発生しておりますので、関係者の皆様には二度とこういった事が起こらないように、注意していただきたいというふうに思っています。

なお、今回の事案を踏まえ、県立高校については、県教育委員会が調査をしているということでありまして、私立高校については、総務部で、生徒の移動方法について実態を調査中でありまして、今のところ調査の結果はまだ来ておりませんので、結果が分かり次第、お知

らせをしたいと思います。今はこういう状況であります。

記者

県教育委員会のほうでも調査が行われているんですけど、私立高校のほうを総務部のほうでやっているというのは承知していたんですけど、教育委員会のほうでも県立高校を対象になんらかの調査をされているってということですか。

知事

そうです。今回の事案を踏まえて、総務部が私立高校を所管していますので、総務部で県内の私立高校に対して、生徒の移動方法について実態を調査中であります。そして、県立高校について、県教育委員会が調査するというふうに聞いております。

記者

それはどういった内容の調査になるんですかね。

教育局教育 DX 推進監

教育局のほうでお答えします。今回の事故を受けまして、県立高校についても、生徒の部活動・遠征時の移動手段、それからこれまでの安全確保についてどういった取組をしてきたかということについて調査をする予定でございます。

記者

読売新聞の中戸と申します。

今のバスの問題について 2 つほど伺わせてください。まず 1 点目について、ガイドラインについてになります。すでに山形県は、県立高校向けには、部活動の移動については原則として公共交通機関とするというようなガイドラインが 2011 年ごろに策定されたというふうに承知しておるのですけれども、今回、今調査中ということですが、もしこれを受けてですね、何か結果が出た場合、私立の高校に対しても一定の指針を県のほうで示すというような対応を取られる予定は現時点でございませうでしょうか。

知事

申し訳ありませんが、私の手元にガイドラインがなくてですね、今後どうするかということについてはちょっとまだ説明を受けておりません。

総務部次長

総務部のほうからお答えをいたします。現在、福島県での事故を踏まえまして、国土交通

省・文部科学省におきまして、どういった対応がとれるかというようなところを検討しているということがございますので、その結果により、我々、都道府県のほうになんらかの通知が来るかと思っておりますので、それを踏まえまして、対応を考えていくというふうなことになるかと思っております。

記者

ありがとうございます。

2つ目は、これに関係して、山形県のほうでは部活動の地域移行のほうを積極的に進めたというふうに承知をしております。今年度から山形市では、中学校の話ですけれども、休日の活動を地域クラブ等に移行するというようなお話が出ておりました。となると、休日の遠征であるだとか、あるいは対外試合ということになりますと、学校サイドではなくて地域クラブ主導でバスを借りて移動するなんていう場面ももしかしたら増えるのかもしれない。ちょっと中学校となると担当が市町村になりますので、県の担当から外れると思うんですけれども、今後そういう事態が考えられるということについて、飛躍した話ですけれどもどういった対応を検討しているのかということをお聞かせいただけますでしょうか。

知事

今、記者さんがおっしゃったようにですね、部活動改革ということで、令和5年度から令和7年度までが、部活動の改革推進期間となっていて、県内の35市町村全てで、部活動の地域展開に向けた体制整備が着実に進められてきました。このことについては、心強く感じておりますし、地域展開に積極的に取り組んでいただいておりますことに、感謝を申し上げますというふうに思っています。山形市さんをはじめ、県内各地で取組が大きく前進していくことを期待しております。県としてもその動きをしっかりと後押ししていきたいというふうに思っています。地域展開になった場合のさらにいろんな仕組みと言いますか、移動方法とかまだいろんなことが出てくるかと思っておりますけれども、今すぐそのことについてどうこう申し上げることはできないんですけれども、やはり生徒の安全第一にしっかりと取り組んでいただきたいなというふうに思っております。

記者

朝日新聞、斎藤です。よろしく申し上げます。

クマによる人身事故に戻るんですけれども、この山菜採りのシーズンにクマの生息域に入るということに対して、県としてもう一段上の強い発信とかは考えてらっしゃいますでしょうか。岩手県の八幡平市では、クマの死亡事案が起きたんですけれども、入山自粛ということで異例の呼びかけをしているというふうな状況です。先ほど、知事、趣味で山菜採りで山に入る場合は、できるだけ控えてほしいというふうなご見解をお示しされましたけれども、県

として、もう一段、入山自粛などの強い呼びかけというのは、どうでしょうか。お考えをお聞かせください。

知事

そうですね、非常に悩ましいところかと思っています。県民の皆さんの安全・安心を考えれば、本当に私自身も山菜採りが大好きなので、子供の頃から山に入っておりましたけれども、その頃と状況がかなり変わって、クマによる被害といいますか、そういったことが増えてきていることを考えますと、やはり趣味で山に行くのは危険だから、できるだけ控えていただきたいというのが正直な私の偽らざる気持ちであります。

もう一段踏み込んで呼びかければいいのかどうかというのは、非常に悩ましいところでありまして、できる限り控えていただきたいというふうに、私の知り合いの人たちにはもう言っていますけれども、山は従前よりも危険なクマの生息域になっているというようなことはですね、しっかりと呼びかけつつも、入山禁止というところまではちょっと担当部でも考えていないというふうに思っています。

岩手県では、山菜採りなどの入山を控えるよう呼びかけるという緊急事態宣言というのがあったということでもあります。岩手県八幡平市ですかね、あと秋田県鹿角市では、3か所を入山禁止としているというところでもありますので、今後のクマの出没状況をしっかりと注視しながら、本当にクマの出没が多発するというような地域が特定できれば、そこを入山禁止にしたほうがいいのかどうかとか、そういったことも検討する余地はあるのではないかと、いうふうに思っておりますので、担当部としっかり話をし、今後に向けて、考えていきたいというふうに思います。

記者

おはようございます。山形新聞です。よろしくお願ひします。

冒頭の知事のゴールデンウィーク期間中の観光客の入込み、これについてお聞きしたいんですが、中東情勢の不安定化で減ったんだろうという見方ができるということでしたが、これからさくらんぼシーズンも山形県、迎えるっていうことで、この先行き不透明な状況がですね、観光客の誘客についてはどう取り組んでいきたいかというお考えがあればお聞きできればと思います。

知事

そうですね、5月ですからあと1か月もないわけでありまして、さくらんぼシーズンが6月到来します。例年、さくらんぼシーズンは全国から本県においでになる方々がたくさんいらっしゃるしまして、本当に6月は山形県が非常ににぎわう、そういうシーズンになるわけです。さくらんぼと観光は切っても切れないということでもありますし、本当に多くの

お客さまがいらっしゃる事が予想できます。イラン情勢がいつまで続くかというのは全く不透明でありますので、先ほど申し上げたんですけども、中小企業向け、あるいは農林従業者向けの相談窓口を設定したり、低利融資制度といったこと、あるいは無利子または低利子の融資制度についても考えているということで、刻々と時間は過ぎますので、その状況を見極めながら、できる限りの対応しているという現状であります。今後についても、イラン情勢もありますし、天候というのもありますので、本当にいろいろなもの横にらみしながら、どういった対策ができるかというようなことを検討していくことになると思います。現時点で今すぐこういうことをしようというようなことについては、まだ何も聞いていないところであります。

記者

ありがとうございます。もう1点話変わってなんですけども、プロ野球楽天の絡み、2軍のですね、拠点誘致に絡んでなんですけども、山形市のほうで、誘致を目指す動きが活発化している状況だと思います。これに対して知事の受け止め、県の対応などあればお聞きできればと思います。

知事

そうですね、山形市で楽天の誘致を決めたということでもありますし、本県が2軍の場所として決定されれば、地域の皆さん、県民みんなが喜んで非常ににぎわうのではないかと思います。ですから、順調に進んでいくといいなというふうに思っているところです。楽天に担当部で聞いてみたらいいんですけども、やはり基礎自治体の市町村が誘致主体だというようなことを聞いておりますので、県内の市町村がしっかりと取り組んでいただくということを期待したいというふうに思っています。

記者

いずれにせよ、仮に実現すればですね、山形県としての、その競技力向上ですとか、地域経済活性化なんかも大いに期待できるものというようなことでしょうか。

知事

まったくその通りだと思います。野球少年もたくさんおりますし、野球少年だった方々もたくさんおります。競技力向上にも資すると思います。ちょっと本県の野球が、甲子園の時1回戦からなかなか上にいけないということも聞いていますし、(誘致が実現すれば)競技力向上にしっかりと資すると思います。また、おっしゃる通り、地域経済の活性化にも大いに資すると思っていますので、経済的にもそうだし、あと県民の皆さんの子どもたちの夢や希望、また県民の活力にも大いに良いプラスの影響があると思いますので、ぜひ山形を選んでいただきたいというふうに思っています。

記者

さくらんぼテレビの伊セです。よろしくお願いします。

新潟の高校生のバス事故にお話を戻しますけども、私立高校が先だって調査を始めたということで、改めて、調査をする理由というか考え、その辺をお聞かせ下さい。また、今やっている調査内容なんですけども、結果はいつ頃にまとめて、その結果をどのように扱うのか教えて下さい。

知事

私立であれ、県立であれ、部活動に伴う生徒の移動ということに関しては、やはり安全第一というのがあるかと思えますので、そういったことに向けて、今回の事故を踏まえての実態調査というのが肝であるというふうに思っています。いつまでの予定で、その後どうするかということについては、担当部から答えてもらいます。

総務部次長

総務部からお答えいたします。県内の私立学校 15 校ございまして、それに対しての調査というふうなことで現在行っております。可能な限り早くというふうなことで調査を進めたいと思っておりますけれども、何分相手もある話でありますので、できるだけ早く、来週末程度には少なくとも遅くともまとめたいというふうに考えているところであります。以上でございます。

記者

その結果はどうやって、まとめたものはどういうふうな扱いをするのでしょうか。

総務部次長

内容にもよるかと思えますので、それを踏まえて考えていくことになろうかと思えます。適切な運用がなされていけば、問題はないというふうなことになろうかと思えますので、そのあたりは調査を踏まえまして考えていくことになろうかと思えます。

記者

あともう 1 つ。県教育委員会で公立高校の調査も行うという話が先ほどでしたが、初めて聞いたんですけども、具体的にいつ頃調査を行うのかということが聞けてなかったと思うので教えてください。というのも、高校総体が来月上旬に始まる、早いところだと陸上部とかなんかは、今月中にもう始まるらしいんですね。実際に県内でマイクロバスで遠征するという部活もあるって聞いています。そういうことを踏まえて、公立のこの調査って早急に始めるべきじゃないかなって僕は思うんですけども、具体的にいつ頃で、いつ頃から開始して、どんな内容の調査を行うか教えてください。

教育局教育 DX 推進監

教育局からお答えします。まず今あった調査については、可能な限り早く行いたいというふうに思います。今準備を進めているところですので、準備でき次第、調査をしたいというふうに思います。今、私立高校のお話もありましたので、その辺は足並みを揃えて、来週あたりを目途に調査完了したいなというふうに考えております。

それから調査内容につきましては、先ほど申し上げたように、現在の安全確保がどのようになされているか、あるいは今の生徒の移動の状況がどの程度あるのか、どんな方法を手段使っているのか、あとはどんなふうに管理職は確認して進めているのか、その辺を含めて検討したい、調査したいというふうに考えております。

記者

ちょっとすみません。聞こえなかったところがあるんですけども、来週を目途に完了予定というか、想定しているってことですか。

教育局教育 DX 推進監

来週末を目途に調査を完了したいというふうに考えております。

記者

河北新報の渡辺と申します。よろしくお願いたします。間が空いてしまって申し訳ないんですけども、先月、東京の NHK のほうに大河ドラマの要望活動されたと思うんですけども、知事として今後大河ドラマの誘致活動っていうところに、どう関わっていくかっていうところ、今後の展望っていうところがあればお伺いできればと思ひまして、よろしくお願いたします。

知事

そうですね、最上義光を大河ドラマにする会っていうのがありますので、松尾先生が会長をされていますけど、今後もっと継続してしっかりと取り組んでいきたいというふうにお考えでありますし、私としても、ぜひ実現してほしいなというふうに思っております。また、要望活動でありましたり、どのような活動をされるかわからないんですけども、そういったことをお聞きしながら、私でできることはお手伝いしたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。あと、関連してなんですけども、仙台市のほうですと、要望活動っていうところの関連予算として、財政的にも支援しているっていうような流れがあると

思うんですけれども、要望活動のほうで何か予算的な動きを今後見据えてるっていう、そういうようなものは何かありますでしょうか。

知事

今のところ、そういうご要望まではいただいているのではないかなと。

ただ、要望活動と一緒に行ってほしいということをおっしゃって、私としてもそれは望むところでありましたので、行かせていただきましたけども、予算というところまでまだお話しはありません。県はやはり4つの地域をもって、所管してますので、それぞれいろいろな活動がありますので、最上義光ですと山形市になるのかなと思うんですけれども、県としてはどういことができるかといったことも考えながら、今後支援できる場所があればしていきたいというふうに思っています。多分、私、この間松尾先生から顧問になってほしいと言われて顧問になったんじゃないかと思うんですけど、ちょっと確認してみないと、そんな状況です。

記者

YTSの望月と申します。よろしくお願ひいたします。

先ほどのバスの事故の件について、ちょっとお伺いしたいんですけれど、先ほど対応はまず国のほうが決めて、そのあと県にっていう形でお話もお伺いしたんですけども、今、現時点で、部活動と長距離移動というのは本当に切っても切り離せないものだと思うんですけど、調査も行っているということで、安全な部活動の実施に向けて、今、現時点で知事が各学校に求めたいことだったり、調査結果を受けて、今後検討が必要になりそうなこととか、現時点での思い、考えなどお答えいただけますか。

知事

そうですね、やはり教育界のことなので、第一義的には、独立した行政委員会である県教育委員会で、しっかりと取り組んでいただきたいということは思っています。今、県立高校のお話でしたので、県立高校の場合は、部活動の遠征等の引率業務を行う際には、交通手段も含めて顧問が計画した内容を管理職が確認した上で、旅行命令を出しているというふうに聞いています。その交通手段については、公共交通機関や貸し切りバスを原則としながら、これらの利用が困難な場合、教員が自家用車やレンタカーを運転して引率することを許可しているというふうに聞いております。そういうふうにもきちんとしていても、平成23年には事故があった、確か米沢方面だったというふうに記憶をしておりますけども、生徒、引率者も含めてですね、やっぱり安全第一に移動には取り組んでいただきたいというふうに思っています。やはり、強化試合でありましたり、練習試合でありましたり、いろいろなことで移動は必要となってますので、やはりルールをきちんと決めて、それを守って安全第一

で取り組んでいただきたいというのが、私の考えであります。

記者

TUY の大内です。クマについて追加で質問させていただきます。酒田市の男性の件なんですけれども、死因がクマによるものと確定した場合は何年ぶりになるのか、県内で何年ぶりになるのか改めて教えてください。

知事

何年ぶりかということですか。それは、環境エネルギー部で把握していますか。

環境エネルギー部次長

確か 36 年ぶりだと思いますが、確認した上で記者会見後にご説明差し上げます。

(⇒記者会見後訂正：38 年ぶり)

知事

かなり久しぶりということになりますね。

記者

そうなった場合、かなり大きな事案になるというか、問題になると思うんですけども、確定した場合、新たな対策であったり、強い自粛の呼びかけだったり、現時点で予定しているもの、検討しているものがありますか。

知事

はい、その結果を踏まえて担当部で検討することになると思うんですけども、(担当部で)いろいろなシミュレーションをしているんだと思いますが、現時点でどのような内容かとまでは、ちょっと申し上げられないところです。

環境エネルギー部次長

今、知事からありました通りですけれども、現時点でどのような対策をとというようなことは決まっておりませんが、少し補足して申し上げれば、先ほどこれも知事からもありましたけれども、特定の場所で被害が続くようなことがあるとか、ある特定の凶暴なクマがいるとかそうしたことで被害が連続するようなことがあれば、先ほどの東北他県の事例のような様々な規制を考えることも想定されるかなというふうに現時点では考えております。

以上